

平成30年度 学校評価計画表

奈良県立登美ヶ丘高等学校

<p>教育目標</p>	<p>自他敬愛に基づく協調の精神に富んだ心豊かな人間性を育成するとともに、自ら定めた目標に向かって意欲的に取り組む態度を育てる。</p>	
<p>運営方針</p>	<p>日々の学習活動を大切にして生徒の進路実現を目指すとともに、学校行事や部活動を通して「知・徳・体」のバランスのとれた生徒を育成す</p>	
<p>平成29年度の成果と課題</p>	<p>本年度重点目標</p>	<p>具 体 的 目 標</p>
<p>学校行事においての司会進行など、生徒を主人公として前面に押し出した取組は周囲からも高い評価をいただき、生徒の成長も確認できた。今後も本校教育の特色の一つとして位置づけ発展させたい。1年次からのキャリア教育の推進によって、自らの目標を明確にし、主体的・積極的に取り組む姿勢を育成したい。生徒の学力向上のために「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善や、観点別評価等について、各教科はもちろん学校全体で創意工夫しながら取組み、教員の授業力のさらなる向上を目指す。各課題に対する教員の資質を高めるための研修を実施するなど、教員間の連携を強めて、一層の組織力強化に向けて取り組みたい。</p>	<p>キャリア教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育のあらゆる活動を通して、将来のビジョンを描くことができるように進路指導を充実させる。 ・規範意識を高め、信頼される人間の育成を図り、コミュニケーション能力を向上させる取組を推進する。
	<p>学習意欲と学力の向上 自立した学習習慣の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ早く進路目標を設定させ、目標達成のためにHRや個人面談を充実させる。 ・基礎基本を大切にし、論理的思考力・表現力・判断力を育成するために授業改善や工夫を図る。
	<p>グローバル人材育成(国際理解)の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルなコミュニケーション能力を高めるために、英語教育を重視する。 ・郷土の歴史や風土を知り、郷土を愛する精神を育成する。
	<p>地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校教育活動に対する地域住民の理解を得るための取組を推し進めるとともに、地域の持つ教育力を積極的に取り入れる。 ・開かれた学校としてあらゆる機会を利用して情報を発信する。 ・コミュニティースクール化に向けた取組みを始める。
	<p>学校の組織力の強化と教育力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成状況や課題の共有化・焦点化を図り、解決に向けた方策を探る。 ・「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善を積極的に図る。 ・学校評価を活用し、外部評価を念頭に置いた改善を図る。 ・教育相談体制の構築による生徒支援体制をさらに強化する。

評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策・評価指標
第1学年	生徒が楽しく通学できる環境づくりを行う。	生徒・教員全員が集団意識を持って取り組む。
		円滑な情報伝達と共有、協力（報告・連絡・相談）。
	登美高生としての自覚を持たせる。	基本的な生活習慣（遅刻・欠席・提出物等）を身につけさせる。
		挨拶の励行。
		部活動への積極的参加を促す。
目標設定とそれに向けた自主的な取り組みを行わせる。	具体的な将来或いは進路の目標が設定できるように導く。	
	基礎学力の定着を目指す。	
第2学年	生徒が不安無く学校生活を送れる環境づくり。	欠席・遅刻生徒への対応を丁寧に行い、常に状況把握に努める。
		円滑な情報の伝達と、共有、協力（報告・相談・連絡）に努める。
	第2学年としての立ち位置を意識した学校生活を送らせる。	基本的な生活習慣や規範意識を大切にし、後輩の見本となる行動（登美高生としての自覚ある行動）がとれるように導く。
		学校行事、クラブ活動、学級活動への参加を周囲との関係を整えながら積極的に行っていく姿勢を身につけさせる。
		総合的な学習の時間を通して、責任ある取り組みと協力して活動する姿勢を育てる。
目標設定とそれに向けた自主的な取り組みを行わせる。	毎日の家庭学習確保のために、課題の出し方を工夫する。	
	具体的な将来或いは進路の目標が設定できるように導く。	
第3学年	健康的で規律正しい学校生活を送らせる。社会に出て行くにふさわしい自立心をもった人間形成を目指す。	生活状況を的確につかみ、必要な助言や指導を行う。家庭と連絡を密にし欠席・遅刻が5回を超えないよう個々に応じた指導を行う。
	進路についてしっかり考えさせ、自らの目標に向かって、向上心を持って学習に取り組むように指導する。授業に集中して取り組ませ、家庭学習を充実させる。	CTと「総合的な学習の時間」を活用して、進路についてしっかりと考えさせる。実力養成講座を充実させ、継続率50%を維持できるような魅力ある講座をめざす。 進路実現のための、基礎学力と応用力を身につけ、集中して学習に取り組めるように指導する。自習室の指導体制を徹底させる。
	積極的に学校生活に取り組ませ、連帯感・協調性を高める。他者と支え合える社会性を身につけさせる。	学校行事に積極的に取り組ませ、責任を果たす大切さ、協力する素晴らしさを体得させる。
		部活動に引退まで取り組ませ、達成感の中での人間的成長を促す。
	さまざまな学校生活の中で互いの違いや個性を認め合いながら、進路実現に向けてクラス全体で努力できる仲間づくりにつとめる。	

総務企画部	教育体制の整備と教職員の指導力向上に取り組む。	厳粛で温かみのある入学式・卒業式および着任式・離任式、規律のある始業式・終業式・修了式を企画運営する。
		学校評価計画表を作成し総括会議を主催することで、本校の教育活動を点検し、教職員の指導力向上を目指す。
		各種アンケートを実施し、保護者・生徒・外部関係者等の本校への評価を明らかにし、結果を教育活動に反映させる。
		オーストラリア語学研修の企画運営と事前研修・準備の中心的役割を担い、グローバル人材の育成・国際理解教育の推進に努める。
育友会・各種団体・同窓会との連携を深める。	育友会・各種団体との円滑で緊密な連携と協力体制を築く。育友会活動への保護者の積極的な参加を働きかけ、組織の活性化を図る。	
	定期的な監事会を実施し、監事間の連携で同窓会活動の活性化を図る。	
開かれた学校として本校の活動を広報し、教育活動の周知に努める。	学校案内誌『碧き風』の充実、生徒中心で運営するオープンスクールの企画、学校ホームページの積極的活用を通じて、本校からの情報発信と広報活動を推進する。	
教務部	学力向上を目指した「主体的・対話的で深い学び」の推進	アクティブ・ラーニングの形態を取り入れた授業をすべての教科で実施するとともに、研究授業や研修機会の充実を図り、生徒の学力向上を図る。
		シラバスを活用した観点別評価をすべての教科で推進し、生徒一人一人に応じた手立てを探究するとともに実態に応じた授業改善を図り、生徒の学習意欲を高める。
	総合的な学習の時間「倭」における国際理解教育の充実	教員間の連携を密に行い、培うべき力の共通理解を図ることで、PDCAサイクルを効果的に機能させ、生徒のコミュニケーション・プレゼンテーション能力を高める。
		グローバル人材の育成を目指して、地域の方々等外部講師の招聘や教材の厳選を図り、生徒の探究的な活動を活性化し、生徒の国際理解への関心・意欲を高める。
授業時間の確保と少人数授業の推進	時間割の変更や考査前の授業調整を円滑に行い、各教科間においてバランスのとれた授業時間を確保する。	
	「グローバル・イングリッシュ」等の少人数授業の特性を生かすとともに、特別教室の活用を工夫して、生徒一人一人の実態に応じたきめ細かい指導を推進する。	
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立とマナーの向上をめざす。	遅刻を最小限におさえ、年間全学年1.5%未満を目標とする。
		学期に一回の全校集会と毎日ショートホームルームでの指導を行う。
		週3回の昇降口指導、週1回の中登美ヶ丘6丁目の通学路指導を行う。
		1学期に1回の自転車集会、2学期に1回の自転車点検を行う。
		生活委員会による学期に1回の挨拶運動を行い、挨拶の励行をすすめる。
	『生徒が、瞳を輝かせ、胸を張って、笑顔で登下校』を目標に、生徒理解に努める。	特別支援を必要とする生徒の支援と、関係分掌との連携を密にし、明るく健全な生徒の育成に努める。
		アンケート「教えてください」を活用し、「いじめ等」のアンケートを基に個々の生徒理解に努める。
		職員と生徒が自然に挨拶をかわす、明るい校風の確立。
	部活動の活性化と学校行事を通じて積極的に取り組める生徒を増やす。	人権教育部との連携を図り、合同ホームルームの充実を図る。
		学校行事において、生徒会役員およびオリターとの連携を密にし、その充実を図る。
	文化祭実行委員会の活動を補佐し、その充実と活性化を図る。	

進路指導部	向上心を持って、粘り強く努力した生徒が希望の結果につながるようサポートできる体制を確立する。	生徒個々に対しては、校外模試を利用した動機付けを行い、スケジュールに基づく学習に取り組ませる。 集会・面談等を通じた意識付けを行うとともに、キャリア設計に対する理解を深めさせる。
	生徒が、高い学習意欲を持ち、自主的に学習に取り組む姿勢を育てる指導体制をめざす。	実力養成講座を通じて、目的意識を持って自主的に学習する態度を養う。
	保護者に対し、必要な情報を伝えるとともに、意思疎通を図る取り組みを行う。	保護者対象の進路説明会を行い、進学・就職に対する理解を深めてもらう。 配布物を通じて、保護者に情報を提供する。
	教員に対して、外部で得た様々な情報・データを示し、教員全体で指導についての共通理解を図る。	各種の情報提供を行い、研修会を実施するなど、本校の実態と大学受験の現実に対する共通理解を深める。 生徒に対して、あらゆる教育活動を通じて、生徒が向上心を持って取り組めるよう指導する。
人権教育部	さまざまな人権問題を自らの課題と考えて、周囲のなかまと力を合わせて解決していく生徒を育てる。	3年間を見通した人権ホームルーム活動の年間計画に沿った取組を推進するために、指導案の作成や資料等の収集に努める。 他の分掌と連携しながら、多角的に人権問題にアプローチできるような工夫を行う。 人権について発信する機会を月1回設けて、人権問題を日常的に考えられるように努める。
	他者との個性のちがいをよく理解し、共に社会生活を送ることのできる生徒を育てる。	ろう学校との交流会を複数回実施することにより、社会における共生の在り方について考える機会とする。
健康教育部	健康的で安定した学校生活を送れる態度を育成する。	各種検診等の結果を踏まえ、自ら健康的に生活できるような態度を身につけさせる。 医療勧告書などにより生涯にわたって健康的に生活していける態度を涵養する。 掲示物などを用い校内においても健康に対する啓発活動を展開する。
	運動・食と健康の関連性を理解させる。	体育行事を通して運動と健康との関わりや必要性を理解させる。 体育行事や部活動を通して一体感や愛校心を育成する。 食習慣の実情把握に努め、正しい食習慣を実践できるような態度を育てる。
	学校内外の環境美化に努める意識を育てる。	自主的に校内外の環境美化活動を推進できる態度を育成する。 校内において分別収集などを推進し生涯にわたり循環型社会を担うことを理解させる。 購買の利用やマナーの向上のための啓発に努める。

文化図書部	読書習慣の確立	各教科・各分掌との連携を図り、蔵書の充実を行い、年間貸し出し冊数2000冊以上をめざす。
		図書委員会を学期毎に開催し、広報活動を充実させる。
	文化・芸術・伝統への理解推進	文化鑑賞会を年1回開催し、文化に対する意識を高める。
		百人一首カルタ大会を開催し、日本古典文化への理解と関心を深める。
		文化委員会を学期毎に開催し、文化祭や文化講座などの充実をめぐる。
生徒会指導部	生徒会活動を他分掌と連携して、生徒同士の連帯感や母校愛を高める。本校生徒が、アクティブ・ラーニングで培われたプレゼンテーション能力をあらゆる場面で生かせるようにつとめる。	各学期に1回以上、各専門委員会独自の取り組みを行い、生徒会本部と連携できる取り組みもできれば行う。
		フレッシュマンミーティングやオープンスクールでの新入生（新入生候補者）および本校オリター参加者の満足度を80%以上にする。
		キャプテン会議・部活動集会を各学期に必ず行い、部活動ごとの規律面だけでなく、母校愛を育てるために校歌斉唱や部活動の効用などを共有する時間をもっていく。
	開かれた学校として、「地域とともにある学校づくり」を双方向で発信していく。	地域の教育機関だけでなく、地域の皆さんと連携する行事を3回以上行う。
	分掌内の分担内容を明確化し連携につとめ、全職員を牽引していく。	全体の動きが分かるよう、行事細案を立てる。
国語科	より良い評価方法の確立	シラバスを活用した観点別評価を導入し、生徒一人一人に応じた学力の向上を図る。
	日々の授業を通して基礎・基本の徹底をはかる。	音読指導を単元毎に行い、言葉に対する感性を高める。
		古典文法を理解させることに努め、50%以上の生徒に基礎力の定着をはかる。
	授業の範囲に留まらず、日常生活の中で語彙や活字に対する興味を喚起させる。	新聞教材など話題性のある教材や作品を効果的に扱う。
		図書室と連携し、関連教材の提示を効果的に行う。
国語の様々な分野で自己表現の実践の場を多く持ち、生徒に自信をつけさせる。	アクティブラーニングをふまえた自己表現の時間を10%設定する。	
	様々な場、形式で「書く・発表する」ことで、表現の楽しさを味わい、自己表現に対する抵抗感を軽減する。	
地歴・公民科	より良い評価方法の確立	シラバスを活用した観点別評価を導入し、生徒一人一人に応じた学力の向上を図る。
	地理・歴史・公民に対する関心を高め、知識・理解を深めることを通して、地理的・歴史的・公民的思考力を培う。	視聴覚教材の積極的な利用（年間授業時間数の10%程度は用いる）を進める。
		学期に一度は、図書室等を利用して調べ学習を実施し、生徒が自主的に学び、活動する機会を設ける。
	アクティブラーニングを実施することを通して、21世紀を生きる根源的な力（キーコンピテンシー）を育成する。	言葉・情報・知識等を活発に活用するために、探究型・参加型学習の一環として、学期に一度は発表学習を行う。
		学習仲間と関わり、協力するために単元に一度はペアワーク・グループワークを行う。
日常の学習活動の中で、基礎・基本の充実を図る。	知識の定着を目指し（認知プロセスの外化）、レポート、小テスト等を単元ごとに一度は課し、学習状況を確認する。	
	論理力の育成を図るために、単元ごとに一度はまとめて資料を読む機会を持つ。	

数学科	より良い評価方法の確立	シラバスを活用した観点別評価を導入し、生徒一人一人に応じた学力の向上を図る。
	基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばす。	苦手な生徒には個別指導を行い、追認考査対象生徒をなくす。得意な生徒には問題集を自主的に解かせ、実力養成講座への参加を促す。
	家庭学習の習慣を身につけさせる。	必ず宿題を出させる。提出物の期限や定期考査直前に学習を始めるのではなく、普段から計画的に学習するように指導する。
	日々の授業を通して、数学的な見方や考え方を認識し、数学の美しさ・おもしろさを感じられる生徒を育てる。	授業に集中させ、興味・関心をもたせる教材を工夫する。身の回りの現象を数学的にとらえた教材を積極的に授業に取り入れる。また、そういった問題を解くとき、グループワークなどのアクティブラーニングを取り入れた授業を行う。
理科	より良い評価方法の確立	シラバスを活用した観点別評価を導入し、生徒一人一人に応じた学力の向上を図る。
	教材研究の時間を確保し、生徒が主体となる授業を心がける。	毎授業内で、身近な例を1つ取り上げ、関連付けを行う。
	各単元に対応した観察・実験を行い、自然科学に対する興味・関心を高めさせる。	各考査毎に最低1回の観察・実験を行う。
	理系学部進学希望者の進路実現を目指す。	個々の生徒が必要としている情報を厳選して集める。入試問題を研究し、入試に対応できる実力の向上を図る。実力養成講座にて20校の入試問題を体験させる。
保健体育科	運動に主体的に取り組む体験を通して、生涯にわたって運動を継続する力を身に付けさせる。	1・2年生の授業でグループ学習、2・3年生についてグループノートの内容の充実を図る。運動に主体的に取り組む体験を通して、生涯にわたって運動を継続する力を身に付けさせる。
	運動の合理的な実践を通して、健康の保持増進と基礎的体力の向上を図る。	体調に応じて運動量を調整したり、仲間や相手の技能・体力の程度に応じて配慮できる能力を育てる。体育理論では、スポーツの意義や歴史、文化的特徴の理解およびスポーツに対する意識の向上を図る。
	健康と安全について総合的に理解を高め、これらの今日的課題に対し、主体的に取り組む、改善・維持・管理していく力を身に付けさせる。	生き生きとした社会生活を送るために必要な健康に関する知識を習得する。生涯にわたって健康に生活するために、生活習慣の指標を身に付けさせる。応急手当やAEDの使用方法を含めた心肺蘇生法の手順を身に付けさせる。
音楽科	様々な音楽における興味・関心・意欲を養わせ、幅広い音楽における鑑賞能力を高めさせる。	古今東西の幅広い音楽にふれる中で、自ら様々な音楽活動に取り組む姿勢を身に付け、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育成するとともに、より一層深い鑑賞能力を育成する。
	音楽における豊かな表現力や独自の創造力を高めさせる。	読譜力を高めるとともに、幅広い歌唱・器楽演奏活動を通して、表現力をさらに高め、また、自ら音楽を創造する能力を育成する。
美術科	見る・描く・作るの基礎を身につけて表現する喜びを体験させながら、様々な美術作品に関する知識を身につけさせる。	デッサンの基礎能力を身につけて、画材・用具の多様な表現力をつけさせる。美術史上の画家や、その生涯と作品について知り、名画の鑑賞能力を身につけさせる。
	美術を愛好する心情を育て感性を高めさせる。	それぞれの個性を認識させ、それを活かす方法を考えさせる。
書道科	書の歴史を学び、名品名跡の鑑賞力を身につけさせる。日常における書写能力を身につけさせる。	できるだけ多くの名品名跡にふれ、古典臨書にじっくり取り組ませる。実用的な書に取り組ませる。生活の中の様々な書に目を向けさせる。
	書美を表現する力を身につけさせる。	古典臨書を通じて様々な表現技術を身につけさせる。作品制作に意欲的に取り組ませる。

英語科	より良い評価方法の確立	シラバスやCAN-DOリストを活用した観点別評価を導入し、生徒一人一人に応じた学力の向上を図る。
	4領域（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）をバランスよく学べるよう、生徒が英語に興味・関心を持つよう指導の工夫をする。	定期考査や授業を通して、生徒の4領域の学習度合いを測る。また、課題や小テストを定期的に行い、到達度を把握し、きめ細かい指導を行う。
		各学期に1回、英語検定などの検定を紹介することで、生徒に関心を持たせ、指導に努める。
		3年1学期、1、2年3学期にGTECを実施し、CTを活用するなどしながらリスニング力やライティング力の向上に努める。
	リーディング力の向上に必要な語彙力や、文法力を定着させる。	教科書、補助教材を活用し、最低でも毎週1回単語テストを行い、語彙力の強化に努める。
リーディングの基本となる単語については、1年生で2000語、2年生で3500語、3年生で5000語の習得を目指す。 1、2年生は少人数編成による講座の実施により文法力の強化を目指す。また3年生では実力養成講座等で生徒のニーズに応じた指導を目指す。		
家庭科	より良い評価方法の確立	シラバスを活用した観点別評価を導入し、生徒一人一人に応じた学力の向上を図る。
	人の一生と家族・家庭及び福祉・衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。	分野ごとに実習や演習など体験学習を行う。 アクティブラーニングを活用した学習を学期毎に取り入れる。 観点別評価を取り入れるとともに、生徒の自己評価表を活用し学習効果の向上に努める。
	家庭や地域の生活課題を主体的に解決する実践的な態度を育てる。	ホームプロジェクトに年2回取り組ませる。 学校家庭クラブ活動を充実させ、参加させる。
情報科	より良い評価方法の確立	シラバスを活用した観点別評価を導入し、生徒一人一人に応じた学力の向上を図る。
	情報機器を問題解決に効果的に使えるようにする。	プレゼンテーションソフト、表計算ソフトを使用する実習を行う。 教室での教科書をベースとした授業と情報学習室での実習の授業を行う。